

ゴンザ, タタリノフ, レザノフ各語彙の比較研究

北村 一 親

久保静佳 鳥谷部 茜 中村あずさ 齋藤いく*

Presented by a Mage and Four Angelic Ladies

0. はじめに

18世紀, ロシアに漂着した日本人たちは日本の様々な地方の方言色を濃く反映したロシア語対訳の日本語語彙資料を後世にいくつか残した。¹⁾ 本稿は北村が過去, 数度にわたり公刊した論稿²⁾ において『タタリノフ語彙』を研究したことから, 我々5人の理解が最も深いこの『タタリノフ語彙』を中心に据え, 『タタリノフ語彙』の項目³⁾と『ゴンザ語彙』および『レザノフ語彙』の項目とを比較した共同研究である。(ゴンザの編纂した『ゴンザ語彙』は分量といい, 内容といい, まさに「辞典」と呼ぶに相応しいが, 今回は他の二つと同様に「語彙」と称しておくことにする。)

論考を進める前に, これら三つの語彙の来歴をごく簡単に記しておく。

『ゴンザ語彙』: 1728 (享保13) 年11月, ゴンザ等が乗り込んだ船が薩摩を出て大阪に向かったが, 嵐のため漂流し, 翌1729年6月カムチャツカ南部東海岸に漂着。ペテルブルクでアンドレイ・ボグダノフの指導の下にゴンザが1736年から1738年の間に編纂したНовый лексикон славено-японский [『スラヴ語・日本語新語彙』]。約12000語から成り, 薩摩方言に基づくと言われる。(村山七郎(編)『ゴンザ編, A. I. ボグダーノフ指導 新スラヴ・日本語辞典 日本版』井桁貞義 / 興水則子(協力), ナウカ, 1985年, 解説より。なお, 『ゴンザ語彙』の標題は現代ロシア語による表記に改めたものであり, その日本語訳は北村による)

『タタリノフ語彙』: 1744 (延享元) 年11月, 下北を江戸に向けて出帆した多賀丸が難船し, 漂流

*) 久保, 鳥谷部, 中村, 齋藤の4名は岩手大学人文社会科学部(人間科学課程人間情報科学コース)の学生である。

1) これらの漂流民や彼らが残した語彙に関して詳しくは北村一親「18世紀のアンドレイ・タタリノフ露和語彙集の研究(第1部)」『アルテス リベラレス』76号, 2005年, 1-12頁参照。

2) 北村「タタリノフ露和語彙集の研究(第1部)」(前掲); 北村一親「ロシアにおける18世紀の東北方言資料」『名古屋・方言研究会会報』25号, 2009年, 87-106頁; 北村一親「18世紀のアンドレイ・タタリノフ露和語彙の研究(第2部)」『アルテス リベラレス』84号, 2009年, 1-29頁。

3) 『タタリノフ語彙』は本篇の「語彙篇」末尾に「会話篇」等が付属しているが, 本稿では語彙の項目比較を目的とするので「語彙篇」のみを扱う。

の果てに翌1745年5月、千島（クリル）列島に漂着。この漂流民サノスケの息子、サンパチ（ロシア名、アンドレイ・タタリノフ）がイルクツクで編纂した語彙。1782年10月までには完成。ロシア語見出しで973項目、北東北方言に基づく日本語で対訳されている。（北村「タタリノフ露和語彙の研究（第2部）」（前掲）参照）

『レザノフ語彙』：1793（寛政5）年11月、江戸に向けて仙台石巻を出帆し、漂流の後、翌1794年にアリューシャン列島に漂着した若宮丸の漂流民一行の送還を名目として1804（文化元）年9月に長崎にきたロシアの第2回対日使節団長ニコライ・レザノフがナジェジュダ号上で彼らの言語を記録したСловарь японскаго[sic] языка。『ロシア字母による日本語語彙』（1804年、約3500語）、および長崎にて土地の方言等を増補した『日本滞在中改訂増補されたロシア字母による日本語語彙』（1805年、約5000語）があり、本稿では方言的純粋さの観点から前者を採り上げる。仙台方言に基づくと言われる。（村山七郎『漂流民の言語 — ロシアへの漂流民の方言学的貢献 —』吉川弘文館、1965年より）

1. 各語彙間における項目比較の諸相

本章では導入として上記の三つの語彙、すなわち『ゴンザ語彙』、『タタリノフ語彙』および『レザノフ語彙』のいくつかの項目を、後に示す一覧表には現われないものも含めて、比較してみることにする。⁴⁾ 例えば、ロシア語адъ（現代ロシア語形ад）「地獄」に対する日本語はそれぞれの語彙において次のようになる。（たまたま、各語彙の影印（『ゴンザ語彙』および『レザノフ語彙』は見本としての影印）がある箇所なのでこの項目に関しては対訳日本語のキリル文字表記も丸括弧内に示しておく。）

なお、以下、本篇中において角括弧内に示した部分は我々による転写であり、『タタリノフ語彙』で鉤括弧内に示した部分は村山『漂流民の言語』（前出）による転写である。それ以外は『タタリノフ語彙』の原典影印または『ゴンザ語彙』および『レザノフ語彙』の刊行された資料による。引用部分の表記法は一部、改変したが、詳しくは後述する。⁵⁾

『ゴンザ語彙』（27頁および巻頭写真）	адъ	—	ヂゴク。	[džigok]	(джигокъ)
『タタリノフ語彙』（6番）	адъ	—	「ヂゴグ」	[džigogu]	(джйгогу)
『レザノフ語彙』（3番および巻頭影印）	адъ	—	[ヂ'ンコンク]	dzinkonku	(дзинконку)

上記の各語彙に見られる日本語は同一語源の語でありながら、それぞれの別の方言形を示して

4) 以下の資料を使用した：村山(編)『ゴンザ編、新スラヴ・日本語辞典』（前掲。頁番号で引用、アクセント記号はロシア語、日本語ともに省略）；Петрова О. П. «Лексикон» русско-японский Андрея Татаринова, Издание текста и предисловие О. П. Петровой, Москва, Изд-во Восточной Литературы, 1962（北村「タタリノフ露和語彙の研究（第2部）」（前掲）で示した方針による項目番号にて引用）；田中継根(編)『ニコライ・レザノフ編著、日本版 田中継根編訳 日本語辞典・露日会話帳』仙台：東北大学東北アジア研究センター、2001年（項目番号にて引用）。

5) 片仮名表記において「。」が右下に付いた仮名文字は村山(編)『ゴンザ編、新スラヴ・日本語辞典』（前掲）の表記を援用したもので、「母音の弱化、または消滅」（同書23頁）を示す。また、「джи」を表わす「ヂ」と区別するためにここでは便宜的に「ヂ」で「дзи」を示す。

いることが判る。

さらに次の二つの例は三つの語彙における日本語が完全に別の語源に由来する語を示している項目である。最初の例は「咳」、次の例は「氷」を意味する。

『ゴンザ語彙』(156頁)	кашель	—	ゲケ	
『タタリノフ語彙』(420番)	кашель	—	「シャブギ」	「šabugi」
『レザノフ語彙』(1204番)	кашель	—	「シェキ」	sheki
『ゴンザ語彙』(171頁)	ледь	—	シモガネ	
『タタリノフ語彙』(447番)	ледь	—	「シガ」	「šiga」
『レザノフ語彙』(1453番)	ледь	—	「コオリ」	koori

日本語自体が一見、異なるように見えるが、実は回答する側の視点が異なるだけであり、意味的に均質な日本語が得られていない例を次に示す。ロシア語の「兄弟」(『レザノフ語彙』では「兄」と「弟」)という意味の語の日本語対訳として挙げられた諸形は次のとおりである。

『ゴンザ語彙』(37頁)	братъ, родный	—	キョデ	
『タタリノフ語彙』(75番)	братъ	—	「オヤガダ」	「ojagada」
『レザノフ語彙』(165番)	братъ большой	—	「アニ」	ani
(166番)	братъ меньшой	—	「オトオト」	otooto

しかし、中には二つの語彙、あるいは三つの語彙全てに同様な日本語が見られる場合もある。これらの語彙の本来的な編纂目的は日本人との交流を前提とした「標準的な」日本語の記述にあったので、共通語としての江戸あるいは京都や大阪等の文化的中心地の言葉が出現するのは当然の帰結である。ただ、それらを除外して、編纂者自身の日本語方言が顕になった局面を考えると、『ゴンザ語彙』の薩摩方言と他の二つの語彙の東北方言との言語的な開きは大きく隔たっているはずであるにもかかわらず、同様な表現に収束するには相応の理由が存在するからであり、我々はここに先行する語彙の参照、あるいは模倣を見出しようと考えている。無論、参照ないし模倣する場合でも後続語彙の編纂者自身の方言的色彩を帯びた若干の改変があったことも射程に入れなければならない。(『ゴンザ語彙』と他の二つの語彙とに見られる方言の周囲分布的な語の一致に対する議論に関してはこれらの語彙に関する今後の更なる方言研究に俟ちたい。)

次に示すのは、ロシア語богъ(現代ロシア語形бог)「神」に対する各語彙における日本語の諸形である。

『ゴンザ語彙』(31頁)	богъ	—	フォドケ	
『タタリノフ語彙』(19番)	богъ	—	「フォドゲ」	「fodoge」
『レザノフ語彙』(136番)	богъ	—	「ホトケサマ」	khotokesama

信仰としての超越的存在を「神」にではなく、「仏」に求める編纂者の記述態度に語彙編纂過程における若干の疑問を我々は感じるのである。彼らが船乗りであるという観点に加えて、アニミズム的な「神」をはじめとして、守護神などの「神」の存在も江戸時代には旺盛であったは

ずであるにもかかわらず、また本地垂迹のような思想が庶民にまで普く行き渡っていたとも考えられないので、三つの語彙が揃って「仏」をロシア語богъの対訳とした点に先行語彙の参照が想定されるのである。

同じく宗教に関する基本概念の一つである「悪魔」という語の日本語対訳を次に示す。

『ゴンザ語彙』(92頁)	діаволь	—	ガワッパ
『タタリノフ語彙』(926番)	черть	—	「カッパ」 「kappa」
(『レザノフ語彙』(727番)	диаволь	—	[オニ] oni)

ロシア語の「神」という語を日本語で「仏」と訳すことも然ることながら、ロシア語の「悪魔」という語を日本語の「ガワッパ」あるいは「カッパ」、すなわち「河童」で対応させた『ゴンザ語彙』と『タタリノフ語彙』であるが、「悪魔」が「河童」と結びつけられる蓋然性の低さを考えると、明らかに後発の『タタリノフ語彙』は先行する『ゴンザ語彙』を参照したことが判る。やはり「悪魔」のような「神の敵対者」は当時の日本において一般には『レザノフ語彙』に独自に見られるように「鬼」であったと考えるのが自然であろう。

各語彙を比較検討することにより、それぞれの語彙間で、例えば、項目の選定や語の記述などにおいてどのように先行著作から影響を受けたのか、あるいは先行著作の記述を参照したのかが明らかになると考えている。本稿に即して言えば、『タタリノフ語彙』は『ゴンザ語彙』から如何なる影響を受け、『レザノフ語彙』に如何なる影響を及ぼしたのかが、限定的ではあるが、明らかになるのである。そして、これらの作業で得られた資料を今後、除去することにより、純粋な各方言に対する研究も将来的に可能になると我々は考える。

2. 比較の方法

本研究では『タタリノフ語彙』を基軸として、『ゴンザ語彙』および『レザノフ語彙』の各語彙間で対訳日本語が一致または類似しており、かつロシア語の見出し語が一致または類似している項目を採り上げた。各種の屈折変化をしている動詞は語幹を比較の対象とした。ロシア語見出し語が一致または類似しているので、原則として各語彙における当該の対訳日本語に意味的な等質性を持たせることが可能となった。ただし、同一の意味を有する異なる形のロシア語見出し語の項目も対訳日本語が厳密に一致または類似することを条件に抽出した。すなわち対訳日本語をロシア語見出し語に優先させたわけであるが、その際に日本語方言における音声変異等は同一語と看做した。

我々の研究の最終的な目標は各語彙間での日本語の参照あるいは引用の痕跡を明らかにすることであるが、今回はその大要を把握する導入的な試みであるため、紙幅面も考慮に入れて、できるだけ簡潔な方法を採用した。本稿を離れて一般的に考えれば、『タタリノフ語彙』と『レザノフ語彙』は、それぞれ北東北と南東北の違いはあるものの、共に東北方言資料であるため、東北方言において広く分布するような日本語が共通項目として抽出されることは容易に推測できる。しかし、繰り返しになるが、我々の研究の最終的な目的はこのような方言的共通性を確認することではなく、先行する語彙が如何に後続する語彙に影響を与えたかを検証することにある。すなわち、後続する語彙が先行する語彙を参照した痕跡を調べ、各語彙の編纂過程における先行語彙からの影響を明らかにすることである。そして、これらの参照項目や各語彙にお

いて共通して見られるような「共通語」的要素（前述のとおり各語彙はロシア人が日本人との交渉の際に利用することを念頭に置いて「標準」的な日本語の記述を目指した）を排除すれば、将来的に各語彙から純粋な方言資料を抽出することも可能になると思われるからである。

ただし、今回、紙幅の関係もあり、我々は『タタリノフ語彙』を中心に他の語彙との比較を行ったため、『タタリノフ語彙』が『ゴンザ語彙』を参照した可能性のある項目とその枠組での『レザノフ語彙』が『タタリノフ語彙』を参照した可能性のある項目を抽出することとなった。もちろん、後者の作業では直接的（すなわち、『ゴンザ語彙』を参照した『タタリノフ語彙』とは別個に『タタリノフ語彙』が参照した項目と同じ『ゴンザ語彙』の項目を『レザノフ語彙』が参照）、あるいは間接的（すなわち、『ゴンザ語彙』を参照した『タタリノフ語彙』を『レザノフ語彙』が参照）を問わず、『レザノフ語彙』への『ゴンザ語彙』の影響も含まれることになる。『タタリノフ語彙』が『ゴンザ語彙』を参照しなかった項目で、『レザノフ語彙』のみが『ゴンザ語彙』を参照した項目に関する検討は別の機会に譲りたい。

要するに、現時点で我々が斯学に貢献できうる点を正確を期して記せば、『ゴンザ語彙』の影響の流れの中で、後続する『タタリノフ語彙』や『レザノフ語彙』が先行する語彙に範を求めた痕跡を示すことである。

『タタリノフ語彙』の全973項目を基軸として、『タタリノフ語彙』と『ゴンザ語彙』約12000語、および『タタリノフ語彙』と『レザノフ語彙』約3500語に対して見出しのロシア語部分および対訳の日本語部分に関する比較を行った。『タタリノフ語彙』の973項目と『ゴンザ語彙』との比較は久保、鳥谷部、齋藤の3名が分割して担当した。各担当項目を記すと、『タタリノフ語彙』1番-325番を久保が、326番-650番を齋藤が、651番-973番を鳥谷部が、それぞれ受け持った。『タタリノフ語彙』の全973項目を『レザノフ語彙』と比較したのは『レザノフ語彙』を研究している中村が担当した。北村は『タタリノフ語彙』原典の精査、および三つの語彙における当時のロシア語の意味や綴りの揺れ、日本語方言の考察等も考慮に入れながら、全般的な確認および点検を行った。⁶⁾

使用した資料は次のとおりである。

Петрова, «Лексикон» (前掲)

北川誠一 / 佐藤和之「タタリーノフ_[ママ]『露日レキシコン』『文化における「北」』(昭和62・63年度[弘前大学]特定研究報告書), 弘前: 弘前大学人文学部人文学科特定研究事務局, 1989, 147-253頁.

田中(編)『レザノフ編著, 日本語辞典・露日会話帳』(前掲)

村山『漂流民の言語』(前掲)

村山(編)『ゴンザ編, 新スラヴ・日本語辞典』(前掲)

3. 各語彙間の比較一覧

前述した方法で『タタリノフ語彙』を基軸に『ゴンザ語彙』と『レザノフ語彙』の項目を一覧表にして比較する。(資料の詳細は前章末ならびに当該文献の初出時の記述を参照。)

6) 2009年9月30日開催の北村が主宰する岩手言語学研究会(第52回)にて執筆者全員で最終的な討議をして仕上げた。

タタリノフ、ゴンザ、レザノフ各語彙の比較一覧（三語彙に共通な項目）

	『タタリノフ語彙』 ロシア語	同ロシア語の 日本語訳	『タタリノフ語彙』 ラテン文字転写日本語	『ゴンザ語彙』 ロシア語(頁)	『ゴンザ語彙』 仮名文字転写日本語	『レザノフ語彙』 ロシア語(番号)	『レザノフ語彙』 ラテン文字転写日本語
6	аль	地獄	džigogu	аль (27)	ゼゴク。	аль (3)	dzinkonku
8	азбука	字母	irofa	азбука (27)	イロフア	азбука (5)	irofa
9	анбарь	納屋、倉庫	[kwura]	амбарь または анбарь (27)	クラ	амбарь (8)	kura
19	богь	神	fodoge	бгь [богь] (31)	フォドケ	богь (136)	khotokesama
41	бумага	紙	kami	бумага (40)	カミ。	бумага (191)	kami
46	барабань	太鼓	taigo	барабань (28)	テコ	барабань (30)	taigo
48	барань	牡羊	fitsuzi	барань (34)	フ。ツジ。	барань (31)	fitsuzi
66	брѣтва	剃刀	kamisori	брѣтва (38)	ソリ。	брѣтва (171)	kamisuri
69	бѣра	髭	fige	борода (35)	フイゲ	борода (155)	fige
73	бросаютъ	彼らは投げる	nagema [s]	бросают (39)	ナグル。	бросать (174)	nang imashtemo
81	балалайка	ハラライカ	šamišen	балалайка (28)	シヤム。シエン	балалайка (27)	šamišen
90	бочка	樽	taru	бочка (35)	ヤマダル。	бочка (160)	taru
107	ворь	泥棒	nusubido	ворь (62)	ヌス。ド	ворь (336)	nusubito
114 609	востокъ ость, востокъ	東	fingasi figasi	востокъ (63)	フイガシ。	востокъ (349)	fingashi
151	воробей	雀	suzume	воробѣй (61) врабѣй (64)	スズ。メ	воробей (326)	sudzume
156	вино	葡萄酒	sagi	вино (50)	サケ	вино (265)	sakke
157	весна	春	faru	весна (48)	フアル。	весна (241)	kharu
176	голубь	鳩	fado	голубь (80)	オハバト	голубь (592)	khato
179	горох	えんどう豆	mame	горохъ (81)	マメ	горохъ (614)	mame
194	гуляю	私は散歩する	asubimas	гуляю (85)	アスブ。	гулять (663)	asubimashtemo
196	горло	喉	nodo	горло (81)	ノド	горло (610)	nodo
199	гребень	櫛	kwusi	гребень (83)	クシ。	гребень (633)	kushi
207	дождь	雨	ame	дождь (95)	アメ	дождь (752)	ame
208	дождь идетъ	雨が降る	ame furimas	дождить (95)	アメガフル。	дождь идетъ (755)	ame furimasu
220	дымь	煙	kemu	дымь (103)	ケムイ	дымь (797)	kemo
229	дерево всякое	ありとあらゆる木	ki	дерево (100)	キ	дерево (717)	ki
231	доска	板	ida	доска (99)	イタ	доска (772)	ita
232	дорога	道	midzi	дорога (98)	ミチ。	дорога (770)	mizi
251	жарко	暑い	acui	жарко (110)	アツイ	жарко (832)	adzugodzaru

270	зверь	獣	kedamono	svěrbь (116)	ケダモン	зверь (3455)	kedamonorui
272	звезда	星	foši	svězda (116)	フォシ。	звѣзда (1044)	khoshi
277	зеркало	鏡	kagami	зерцало (133)	カガミ。	зеркало (1063)	kangami
278	зерно	粒、穀粒	hocubu	зерно (133)	フ。トツブ。	зерно (1061)	fitotsubu
279	здесь	ここに	kogoni	здѣ (132)	コケ	здѣсь (1060)	kokoni
280	зима	冬	fuju	зима (134)	フイ	зима (1064)	fuju
284	забыль	忘れた	waste mašta	забываю (119)	ワス。ユル。	забыль (1031)	vasurimashtemo
293	замокъ	錠	džjo	замокъ (124)	ジヨ	замокъ (959)	dzho
297	заць [.] ушкань	兎	usangi	заць (122)	ウサギ。	заць (935)	usang'i
301	замкнй	錠を下ろせ	orosāre	замыкаю (125)	ジヨオロス。	замкнуть (957)	dzhooroshimashtemo
308	замараль	汚した	jogošimašta	замарываю (124)	ヨゴス。	замарать (949)	jongoshimashtemo
315	завяска	紐	fbo	завяска (120)	フイボ	завязка (3465)	fimo
326	землѣнница	苜	ižingo	земленица (133)	イチ。ゴ	земляника (1057)	ičingo
327	змея	蛇	febi	змій (118)	フエビ。	змѣя (1072)	febi
329	замарался	汚れた	jogošimašta	замарываю (124)	ヨゴス。	замарать (949)	jongoshimashtemo
342	иньбирь	生姜	šogu	инбирь (149)	シヨガ	инбирь (1134)	shonga
344	игла	針	fari	игла (138)	フアイ	игла (1096)	khari
345	изба домъ	(農)家	ije	изба (139) дома (97)	イエ ウチ	изба (1104) домъ (766)	ie ie, uchi
352	иду	私は行く	igimasu	иду (138)	イク。	пойть (2237)	jukimashtemo
360	имя	名前	na	имя (148)	ナ	имя (1133)	na
362	издержу	私は使い果たす	skaimas	издерживаю (141)	ツ。カウ	издержать (1114)	tsukaimashtemo
367	кйть [.] рыба	鯨、魚 [の]	kužira	кйть (157)	クジラ	кйть (1225)	kudzaira
372	кйсть	刷毛、筆	fude	кйсть (157)	フデ	кйсть (1220)	fude
374	кошь	牡猫	nego	кошь (164)	オネコ	кошка (1339)	neko
376	кошка	猫、牝猫	onago nego	кошка (164)	メネコ	кошка (1339)	neko
377	корова	牝牛	meuši	корова (163)	ウシ。	корова (1316)	meuši
382	костй	骨	fone	кость (164)	フオネ	кость (1325)	khone
384	кожа	皮革	kawa	кожа (160)	カワ	кожа (1267)	kava
387	колоколь	鐘	cugigane	колоколь (160)	ツキ。ガネ	колоколь (1278)	tsukigane
391	корабль	大型船	oki fne	корабль (162)	フ。ネ	корабль (1304)	fune
395	когда небуль	いつか	izdemi, kazdemi	нѣкогда (221)	イツ。ヂエム。	когда нибуль (1265)	izdumaritomo
396	ково небуль	誰かを	daredemi, karedemi	ктолибо (168)	ダイヂエム。	кто нибуль (1404)	taredemo
398	ковшйкъ	柄杓	fijagu	ковшь (160)	フ。シヤク。	ковшь (1262)	fijaku
399	котель	大鍋	nabe	котель (164)	ナベ	котель (1331)	nabe

408	канать	大綱	zna	ko「a」нать (161)	ツナ	канать (1184)	tsuna
429	камень	岩石	iši	камень (155)	イシ	камень (1174)	ishi
441	книга	本	šomos	книга (159)	シヨモツ	книга (1256)	shomodzu
444	лекарь	医師	iša	лекарь (172)	イシヤ	лѣкарь (1534)	isha
445	лекарьство	薬	kusurimi naru	лекарство (172)	クスイ	лѣкарство (1535)	kusuri
448	лето	夏	nadzu	лѣто (175)	ナツ	лѣто (1544)	natsu
449	летнее время	夏の時期	nazuno izdemu	лѣтній (176)	ナツノト	лѣтней (1545)	natsuno
455	летить	彼は飛ぶ	tobimas	летая (172)	トブ	летать (1458)	tobimashitemo
466	ласточка	燕	subagura	ластовица (170)	ツバク、ラミ	ласточк (1440)	tsubakura
483	мймо	側を	wagi	мимо [плыву] (180)	ワキ	мимо (1612)	vaki
489	мель	蜂蜜	midz	мель (178)	ミツ	мель (1588)	medzu
491	мель [] граница	境	sagai	граница (83)	サケ	межа, грань (1589)	sakaime
497	мельца	熊	k-manpo šiši	мельць (178)	クマ	мельць (1585)	kuma
498	мастерь	熟練した職人, 名人	šjoodzu fto	мастерь (178)	ジヨズ	мастерь (1578)	dzhoozna
503	мышь	鼠	pezumi	мышь (186)	ネヅミ	мышь (1676)	chisaj pezumi
506	мука	粉	ko	мука (185)	ムギ、ノコ	мука (1686)	ko
508	мука пшенишна	小麦の粉	komugino ko	пшенишна мука (297)	コムギ、ノコ	мука пшеничная (1688)	komugino ko
514	магний	磁石	gīsagu	магнить (177)	ビシヤク	магнить (1562)	gizhaku
515	мость	橋	faši	мость (184)	フアシ	мость (1657)	khashi
518	море	海	umi	море (184)	ウミ	море (1651)	umi, kaisho
522	мокро	湿っている	[nureda]	мокро (183)	ヌイエチヨル	мокрой (1631)	noretano
524	мочуся	私は濡れる, 小便する	šoben šimas ; šojošimasuru	мочуся, с'су (185)	シュベンスル	мочиться (1662)	shooben shimashitemo
529	молоко	乳, 牛乳	či	млеко (181)	チチ	молоко (1640)	tsitsi
532	начало	初め, 始まり	fašmede	начало (197)	フアジ、マイ	начало (1835)	khashime
534	начинаю	私は始める	fašmemas	начинаю (197)	フアジ、ムル	начать (1838)	khashimemashitemo
547	нагий	裸の	fadaga	нагий (189)	フアダカジン	нагой (1742)	khadaka
585	нось	鼻	fana	нось (219)	フアナ	нось (1933)	khana
589	ножницы	鉋	fasami	ножницы (219)	フアサミ	ножницы (1930)	khasame
590	ночь	夜	joru	ношь (220)	ヨル	ночь (1936)	joru
599	онь	彼	anofito	онь (225)	アノフト	онь (2068)	anofito
606	очий	眼鏡	megane	очки (228)	メガネ	очки (2065)	megane
610	островь	島	šma	островь (227)	シマ	островь (2014)	shima
615	откуль	どこから	dokkara	откуда (401)	ドツカラ	откуда (2030)	dokokara, dokojuri
616	отсель	こちらから	ačkara	отгуду (405)	アス、コカラ	отгуду (2039)	adchikara, adchijuri
617	оттуль	あちらから	kočkara	отстуду (405)	コツカラ	отстуду (2038)	korikara, korijuri

642	портной	仕立屋	štadenin	портной (255)	シオタチエヤ	портной (2287)	shitatija, noimonoshi
647	поясь	帯	obi	поясь (260)	オビ。	поясь (2330)	khosoobi
654	поть	汗	aše	поть (258)	アシエ	поть (2321)	ashe
655	позло	遅い	osogu	позло (248)	オス。カ	позло (2232)	osoi, osoku
656	после	後で	nožini	посльди (256)	ノチ。	посль (2297)	nochimi
657	полдень	真昼	figuma	полдень (251)	フィル。	полдень (2243)	firu
662	половина	半分	fambun [.] fan	половина (250)	フアンブン	половина (2254)	khambun
671	пишу	私は書く	kagimas	пишу (235)	カク。	писать (2157)	kakimashtemo
681	порты	ズボン	fioje momofigi	порты (255)	シ。タンモモビギ。	портки, панталоны (2288)	momofiki
701	пуговицы	ボタン (複数)	bodan	пуговица (295)	ボタン	пуговица (2415)	bodan
719	река	川	kawa	рѣка (316)	カワ	рѣка (2622)	kava
724	репка	大根	daigon	рег(ь)ка (311)	デコン	рѣлька (2631)	dajgon
732	рублю	私は切る	kirimas	рублю (313)	キル。	рубить (2582)	kirimashtemo
757	сахарь	砂糖	sado	сахарь (319)	サト	сахарь (2649)	sato, tajkhaku
768	сапогй	長靴	kuzu	сапоги (318)	クツ。[ナンド]	сапоги (2647)	kuzu
772	сменяю	私は笑う	waraimas	смяюся (330)	ワラウ	смяяться (2759)	varaimashtemo
778	сокъ	汁液	kimo širu	сокъ (336)	シユル。	сокъ (2781)	shiru
779	сосна	松	mazu	сосна (338)	マツ。	сосна (2800)	madzu
782	соль	塩	šivo	соль (336)	シワ	соль (2785)	shio
784	соколь	鷹, 隼	taga	соколь (335)	フィダカ	соколь (2783)	taga
787	собака	犬	inu	собака (332)	イン	собака (2778)	inu
802	стаканъ	コップ	čogu	стоканъ (347)	チヨク。	стаканъ (2941)	choku
813	скорый	速い	fajoi	скорый (324)	フアヨント	скоро (2708)	khajai
814	стекло	ガラス	bindoro	стекло (346)	ビドロ	проворно (2361)	bidoro
819	скрыпка	ヴァイオリン	kjogu	скрыпка (325)	コキユ	скрыпка (2712)	kogju
831	трьсть	杖	c-we	трьсть (367)	ツイエ	трьсть (3059)	tsui
832	тесть	妻の父	šudo	тесть (360)	シユト	тесть (2987)	shudooja
836	табакъ	タバコ	tabagu	табакъ (357)	タバク。	табакъ (2944)	tabako
839	торгъ, торжище	商売, 市場	aginai	торгъ (364) (торжище (364))	アキ。ネ (イチ。ノバ)	торгъ (3020)	shoombaj, akinaj
851	тепере	今	ima	теперь (359)	イマ	теперь (2974)	ima
858	утро	朝	asa	утро (390)	アサ	утро (3190)	asa
874	уголь	炭	sumi	уголь (375)	キイエスム。	уголь погашеной (3122)	sumi
910	хвостъ . конско	尾 馬の	širwo	хвостъ (395) (конскйй (162))	シル。ワ (ム。マント)	хвостъ (3231) (該当なし)	shirwo (該当なし)

923	червь	蠅虫	muši	червь (411)	ムシ。	червь (3299)	mushi
925	черепаха	亀	kame	черепаха (411)	カメ	черепаха (3304)	kame
933	чай	茶	ča	чай (409)	チャ	чай (3278)	cha
944	черпаль	波んぼ	kame mašta	черпаль (412)	クム。	черпаль (3308)	kumimashtemo
948	читаю	私は読む	jomi mas	читаю (413)	ヨム。	читать (3330)	jomimashtemo
957	шерсть	獣毛	kei	шерсть (417)	ケ	шерсть (3364)	ke
965	якорь	錨	igari	якорь (445)	イカイ	якорь (3444)	ikari
967	яйцо	卵	tamago	яйцо (445)	タマゴ	яйцо (3442)	tamango
972	яма	穴	ana	яма (445)	アナ	яма (3443)	ana

【参考】タタリノフ語彙とゴンザ語彙の比較 (二語彙にのみ共通な項目) (抜粋)

	『タタリノフ語彙』 ロシア語	同ロシア語の 日本語訳	『タタリノフ語彙』 ラテン文字転写日本語	『ゴンザ語彙』 ロシア語 (頁)	『ゴンザ語彙』 仮名文字転写日本語	『レザノフ語彙』 ロシア語 (番号)	『レザノフ語彙』 ラテン文字転写日本語
119	воняеть	それは臭い	ksai	воняю (60)	ク。サカコ、スル。	вонять (319)	kaoringa asigu godzarimashtemo
165	господи́нь	領主	regi regi	господь и госпо́ль (82)	デキ。レキ。	(該当なし)	(該当なし)
415	караули́ть	彼は見張る	ban simas	караулю (155)	バンスル。	(該当なし)	(該当なし)
612	охотни́къ	入手希望者	fošigaru fto	охотникъ (442)	フォシ。ガル。フト	(該当なし)	(該当なし)
926	черть	悪魔	kappa	дiаволь (92)	ガワツッパ	дiаволь (727)	oni

【参考】タタリノフ語彙とレザノフ語彙の比較 (二語彙にのみ共通な項目) (抜粋)

	『タタリノフ語彙』 ロシア語	同ロシア語の 日本語訳	『タタリノフ語彙』 ラテン文字転写日本語	『ゴンザ語彙』 ロシア語 (頁)	『ゴンザ語彙』 仮名文字転写日本語	『レザノフ語彙』 ロシア語 (番号)	『レザノフ語彙』 ラテン文字転写日本語
27	безрешный	罪のない	baži adari gozaranai fto	(該当なし)	(該当なし)	безрешный (48)	bazionaraj ftoide godzaru
206	долгъ	借金	šagušen	долгъ (96)	シャツギン	долгъ (760)	shakushen, kari
219	дарую	私は贈る	kwuremas	дарую (87)	メラスル。	дарить (683)	kuremashtemo
222	дышу	私は息をする	igi zgai simas	дыхаю душу (103)	イク。スル。	дышать (801)	ikitsukimashtemo
446	лечить	彼は治療する	gjoži mimas	лечу (172)	キンソンスル。	лѣчить (1547)	gjoodishimashtemo

第1欄の番号は『タタリノフ語彙』原典のロシア語見出し欄を基準にして番号を付した『タタリノフ語彙』の項目番号であり、本稿の比較一覧全体の項目番号も兼ねている。語彙名を伴わない番号のみの場合はこの比較一覧の項目番号を示している。第2欄は『タタリノフ語彙』原典のロシア語見出し（基本的に原典の表記のままだが、一部の文字を現代風に改めた場合もある）で、ペトロワによる影印（Петрова, «Лексикон»）を使用した。第3欄は同ロシア語の日本語訳である。時として各種辞典や村山『漂流民の言語』を参照した場合もある。第4欄は『タタリノフ語彙』原典のキリル文字日本語対訳を村山が『漂流民の言語』にてラテン文字および音声記号に転写したものであるが、印刷の便宜上、特殊な音声記号は補助記号付きラテン文字に改めた。第5欄は『ゴンザ語彙』のロシア語見出しで、村山（編）『ゴンザ編、新スラヴ・日本語辞典』を使用し、括弧内に所載の頁番号を示したが、アクセント記号は省略した。なお、一部、文字を改めた場合もある。第6欄は『ゴンザ語彙』原典のキリル文字日本語対訳を村山が仮名文字に転写したものであり、村山（編）『ゴンザ編、新スラヴ・日本語辞典』を使用した。印刷の便宜上、仮名文字の下に付く丸印は仮名文字の右下に移した。ロシア語の場合と同じくアクセント記号は省略した。第7欄は『レザノフ語彙』のロシア語見出しで、田中（編）『レザノフ編著、日本語辞典・露日会話帳』を使用し、括弧内に田中による項目番号を示した。第8欄は『レザノフ語彙』原典のキリル文字日本語対訳を田中が『レザノフ編著、日本語辞典・露日会話帳』にてラテン文字に転写したものである。

4. 考察

今回、我々が調べた範囲では全973項目から三語彙で一致または類似している140項目が抽出され、これは別に示した一覧表の全項目数となっている。この中から方言的な音声変異も含め三語彙で完全に一致している90項目を抽出した。さらに動詞の語幹を比較対象に入れると、これに17項目が加わり、ほぼ完全に一致する項目数は107項目となった。

8番「いろは（字母）」、9番「倉」、41番「紙」など三語彙全てに共通している項目の多くは当時の日本で全国的に使用されていた一種の共通語であったと考えられる。その中には701番「ボタン」、814番「ガラス（ポルトガル語系の「ビドロ」）」、836番「タバコ」の外来語3語も見られる。ただ、三語彙全てに共通している項目の中には共通して一致する蓋然性が低い項目（語句）が少なからず見られ、これは先行語彙の影響、すなわち後発の語彙編纂者が先行語彙を参照した可能性が大きいと考えられる。ここにその全10項目を理由とともに述べておくことにする。この中には先行語彙を参照したか否かの結論を我々自身が導くまでに至っていない語もあり、先行語彙を参考にした可能性を最大限に提示したものと理解されたい。

194番「散歩する」では「アスブ（遊ぶ）」という語が「人間が散歩する」という行為と直線的に結びつくのであろうか。（音楽を奏でるのでもなく、鳥獣が戯れているのでもない）；278番「穀粒」では穀物の「粒」に対して必ず「ヒトツブ（一粒）」と表現するわけではない；372番「刷毛、筆」においてこの類の物品に対して「フデ（筆）」と表現しているが、「はけ（刷毛）」と称する可能性はないのか；387番「鐘」を「ツキガネ（撞き鐘）」としているが、これは「鐘」の中の一つでしかない。「つりがね」、「たたきがね」等の多くの名称が存在する；441番「本」では「ショモツ（書物）」という名称が書籍を表わす当時の一般的な語なのであろうか。たしかに「書物問屋」というのが江戸時代にあったが、軟派の「地本問屋」というのも存在した；498番「熟練した職人」としてのジョウズ（上手）」という語は諺にも登場するほどよく使われる呼称かもしれ

ないが、このような職人や名人を一義的にこの名称で呼んでいたのであろうか；599番「彼」では人称代名詞がロシア語ほど発達していない日本語であり、第三者を表わす時に必ず「アノヒト（あの人）」と言っていたわけではない。また、直示的に第三者のことに言及するような場合に必ずしもこのような表現をしてはいなかったであろう；802番「コップ」を「チョコ（猪口）」というのもこれが液体飲料を入れる器の一義的な名称であるのかどうか疑わしい；819番「ヴァイオリン」に関しては後に詳述するが、これを「キョグ／コキュ／コギユ」という類の同一語で別個に表現することはほとんど不可能である；910番「(馬の)尾」では「シリヲ（尻尾）」は「ヲ（尾）」だけではなく三語彙ともに「シリ（尻）」が付くのが解せない。

九州と北東北、南東北という地理的な隔たりに加えて、70年近くの時間を隔てて成立した三つの語彙における統一的な表現の存在は、他の表現の選択もあり得ることを考慮に入れば、編纂課程における先行語彙への参照を示唆していると我々は考えるのである。二つの語彙間だけではなく、三つの語彙間にこのような参照項目があることは正直に言って驚きを禁じ得ない。

その他にいくつかの項目において先行語彙を参照した痕跡を見出したが、中でも先行語彙の参照が確実な例として、『タタリノフ語彙』が『ゴンザ語彙』を「流用」した395番「いつか」の項目を挙げることができる。

『ゴンザ語彙』(221頁)	нѣкогда	—	イツ。ヂェム。
『タタリノフ語彙』(395番)	когда небусть	—	「イズ。デム、カズ。デム」 「izdemu, kazdemu」
『レザノフ語彙』(1265番)	когда нибудь	—	「イズナリトモ」 idzunaritomo)

これを見る限り、『タタリノフ語彙』において北東北方言らしからぬ表現である「イズ。デム（いつでも）」は『ゴンザ語彙』の薩摩方言「イツ。ヂェム。（いつでも）」を参照したために混入された異質の方言要素であることが判るのである。

『レザノフ語彙』は他の二つの語彙とはやや異なる語形を記載している場合が多く、我々の一覧表の中では、日本語動詞の「不定形」を別にしても、19番「神：ホトケサマ（仏様）」、251番「暑い：アツゴヅアル（暑うござる）」、491番「境：サカイメ（境目）」、503番「鼠：チサイネズミ（小さい鼠）」、647番「帯：ホソオビ（細帯）」、832番「妻の父：シュドオヤ（舅親）」がある。ただし、異なると言っても他の要素（下線を引いた部分）と合成しているだけである。

上記を除けば、傾向として『レザノフ語彙』は『タタリノフ語彙』に近いように感じられるが、それは両語彙が東北方言を記載しているからという理由だけでは説明できない。我々の一覧表の中で、66番「剃刀：カミスリ／カミソリ」（『レザノフ語彙』を先に、『タタリノフ語彙』を後に示した）、107番「泥棒：ヌスピト／ヌスピド（盗人）」、176番「鳩：ハト／ファド」、208番「雨が降る：アメフリマス／アメフリマス。」、377番「牝牛：（ともに）メウシ」、616番「こちらから⁷⁾：アッチカラ／アチカラ（あっちから）」の6項目がこの二つの語彙間で一致している語であり、語の構成自体が一致していることから『レザノフ語彙』が『タタリノフ語彙』を参考にした可能性が高い。特に『タタリノフ語彙』208番に対する『レザノフ語彙』はこの語彙に特有の「不定形」語尾である「～マシテモ」にならずに、「～マス」となっている点も先行語彙への参照を裏付けるのである。491番「境」において『タタリノフ語彙』と同様に『レザノフ語彙』は見出し語のロシア語に二つの同義語を並べていることから両者の近さ、すなわち

7) 『タタリノフ語彙』が直示的な位置関係を間違えており、『レザノフ語彙』では「あちらから」というロシア語に正しく対応している。

『レザノフ語彙』の『タタリノフ語彙』への参照が窺い知ることができる。

先に三語彙全てに共通する項目のところで言及した819番「ヴァイオリン」の項目は今回、我々に新たな発見をもたらした。この項目の対訳日本語は全国的に共通した語であるとも考えられるが、それよりも先行語彙を参照した可能性の方が大きいことが判った。

『ゴンザ語彙』(325頁)	скрыпица	—	コキユ
『タタリノフ語彙』(819番)	скрыпка	—	「キョグ」 「kjoju」
『レザノフ語彙』(2712番)	скрыпка	—	「コギユ」 kogju

各語彙における見出しのロシア語の語源はскрипで、その方言的な形がскрыпとなり、「ギリギリ、ギュッギュッ、ギシギシ」という物が軋る音に対する擬音語であり、скрыпка (скрыпицаはやや古めかしい語) は「ヴァイオリン」を意味する。『ゴンザ語彙』の「コキユ」および『レザノフ語彙』の「コギユ」に対してそれぞれの日本語版編纂者は「鼓弓」の漢字を充てている。一方、『タタリノフ語彙』の「キョグ」に対して村山は疑問符付きながら「曲?」⁸⁾の漢字を充てている。ここで『タタリノフ語彙』の仮名文字表記の日本語(今回の一覧表には掲載していない)に注目すると、「きやうく」と長母音であり、短母音で発音される「曲」ではないことが判る。我々はこの対訳日本語は他の語彙と同じく「胡弓(鼓弓)」であると推定し、拗音[j]および長音の音位転換が生じていると考えたのである。『レザノフ語彙』で[k] > [g]という汎東北方言的な有声音化が見られるのも『タタリノフ語彙』と共通した音声特徴である。すなわち819番「ヴァイオリン」に対する日本語は三語彙共通して「胡弓」を表わしていたことになり、この邦楽楽器が当時の日本においてどれほど一般的であったかに関わるが、我々はこの後に発の二語彙がそれぞれ先行語彙を参照した痕跡を見出したのである。

345番「(農)家」は三語彙共通であるとしながらも、実は『タタリノフ語彙』の見出しに二語のロシア語が併記されており、『タタリノフ語彙』は単一の対訳日本語になっているが、他の二つの語彙では項目を変えてそれぞれのロシア語に別々の日本語を充てているため、一つの系列では三語彙共通であり、他の系列では三語彙共通とはならないという変則的な項目である。ここで敢えて取り上げるのはこの後者の系列に日本で育った漂流民とロシアで生まれ育った漂流民二世の文化的な違いが見て取れるからである。345番の見出しのロシア語はизба(現代ロシア語形изба)「(木造の)農家」とдомъ(現代ロシア語形дом)「家」で、『タタリノフ語彙』はともに日本語「イエ」で対応させ、『ゴンザ語彙』では前者に「イエ」、後者に「ウチ」を、『レザノフ語彙』でも前者に「イエ」、後者には「イエ」とともに「ウチ」を充てている。『タタリノフ語彙』ではизбаと区別されないдомъは他の二語彙の対訳日本語を見ても判るとおり建物としての「家(いえ)」ばかりでなく、抽象的な概念としての「家(うち)」も表わす語であり、薩摩のゴンザやレザノフが日本語のインフォーマントとした石巻の漂流民たちは日本で生まれ育ったため、この抽象概念を会得していたのに反し、ロシアで生まれ育った日本人漂流民二世のタタリノフはロシア語домъよりさらに抽象度の高い「ウチ」という概念がおそらく理解できなかったに違いないと我々は推測している。『タタリノフ語彙』の今回は扱わなかった会話篇に「ウジニ(内に)」という表現が出てくるが、⁹⁾それは空間的な内部を表わす語にすぎない。

比較の対象を今回、我々が提示した資料の範囲からさらに拡大して分析すれば、もっと興味

8) 村山『漂流民の言語』(前掲)174頁。

9) 同上書196頁。

深い事実が明らかになると予想される。今回は紙幅の都合で割愛した『タタリノフ語彙』と『ゴンザ語彙』の二語彙間でのみ共通な項目や『タタリノフ語彙』と『レザノフ語彙』の二語彙間でのみ共通な項目を比較した資料の中からほんの一部を抜粋して、三語彙間の「比較一覧」表の後に参考までに掲げておいた。

それらを簡単に説明すると、まず『タタリノフ語彙』と『ゴンザ語彙』の二語彙間でのみ共通な項目の例として、119番「それは臭い」ではこの二つの語彙ともに「臭い」というごく一般的な語（幹）から成っているのに対し、『レザノフ語彙』では「カオリガ アシグ ゴザリマシテモ（香りが悪しくござりまして）」という別の表現であり、この場合、『タタリノフ語彙』と『ゴンザ語彙』が共通であるというよりも『レザノフ語彙』の方が特異であると言った方がよいであろう。165番「領主：レギレギノデキ。レキ。（歴々）」（『タタリノフ語彙』を先に、『ゴンザ語彙』を後に示した）、415番「彼は見張る：バン シマス / バンスル。（番します / 番する）」、612番「入手希望者：（ともに）ホシガル フト（欲しがる人）」はその構成から先行語彙への参照が明らかである。

『タタリノフ語彙』と『レザノフ語彙』の二語彙間でのみ共通な項目の例では、27番「罪のない：バジノナイ フィトデ ゴザル / バジ アダリ ゴザラナイ フト（罰（ばち）～ない人～ござる）」（『レザノフ語彙』を先に、『タタリノフ語彙』を後に示した）という構成は当に先行語彙を参照したと断言してよいであろう。206番「借金」、219番「私は贈る」、222番「私は息をする」、446番「彼は治療する」なども『ゴンザ語彙』とは異なり、『タタリノフ語彙』と『レザノフ語彙』とで共通しており、先行語彙への参照の可能性を示唆している。

なお、『タタリノフ語彙』が『ゴンザ語彙』を参照しなかった項目で、『レザノフ語彙』のみが『ゴンザ語彙』を参照した項目に関する検討は別の機会に譲りたい。

5. 結論

本研究を開始する契機となったのは北村が当該資料の一つである『タタリノフ語彙』においてその資料に固有の方言形ではないと思われるような語句に遭遇したことにある。それを端的に示す好例は北東北方言で構成されたこの語彙の標題紙にある「ニボンノ コドバン」に薩摩方言を核として編纂された『ゴンザ語彙』の標題の一部である「ニフォンノ コトバント」の投影を見出したことである。¹⁰⁾『ゴンザ語彙』にはロシア語 *велеречивый* 「多弁な」の対訳として「ウコトバン（大言葉の = 偉大な言葉の）」が確かに記載されている。¹¹⁾ ロシアで生まれたタタリノフは『ゴンザ辞典』の日本語標題こそ正統で格調高い日本語と受け取り、参照してしまった可能性が高いのである。

本稿ではこの「先行語彙への参照」という主題に焦点を合わせ、『タタリノフ語彙』を基軸として、『ゴンザ語彙』および『レザノフ語彙』との各語彙間で対訳日本語が一致または類似しており、かつロシア語の見出し語が一致または類似している項目を採り上げて比較した。我々の研究の最終的な目標は各語彙間での日本語の参照あるいは引用の痕跡を明らかにすることであり、方言的共通性を確認することではなく、先行する語彙が如何に後続する語彙に影響を与えたかを検証することにあった。すなわち、後続する語彙が先行する語彙を参照した痕跡を調べ、

10) 北村「タタリノフ露和語彙の研究（第2部）」（前掲）8頁。

11) 村山（編）『ゴンザ編、新スラヴ・日本語辞典』（前掲）45頁。

各語彙の編纂過程における先行語彙からの影響を明らかにすることであった。

かつて北村が言及したように、¹²⁾ 村山は『タタリノフ語彙』の会話篇（前述のとおり今回、我々は「語彙篇」を考察対象としたため、「会話篇」は扱っていない）がロシアでゴンザが編纂した『日本語会話入門』（1736年）をほぼ全面的に参照していることを示したが、¹³⁾ これに加えて今回、我々は『ゴンザ語彙』、『タタリノフ語彙』、『レザノフ語彙』の三語彙間における参照関係を一部ではあるが明らかにすることができた。

三語彙に共通している項目を抽出すると、共通して一致する蓋然性が低い項目（語句）が少なからず見出され、これは先行語彙の影響、すなわち後発の語彙編纂者が先行語彙を参照した可能性が大きいと考えられる。地理的に、および時間的に隔てて成立した三つの語彙における統一的な表現の存在は他の表現を選択する余地もあることを考慮に入れれば、編纂課程における先行語彙への参照を示唆していると我々は考える。二つの語彙間だけでなく、三つの語彙間にこのような参照項目があることは驚嘆すべきである。そして、これら先行語彙を参照した項目や各語彙において共通して見られるような「共通語」的要素（各語彙はロシア人が日本人との交渉の際に利用することを念頭に置いて「標準」的な日本語の記述を目指した）を排除すれば、将来的に各語彙から純粋な方言資料を抽出することも可能になるのである。しかし、「先行語彙の参照」を確実に証明するためには今回の分析だけでは不十分であり、今後、比較の対象を今回の我々が提示した資料の範囲からさらに拡大して分析すれば、もっと興味深い事実が明らかになると考えられる。

今回、三つの語彙を比較して、本稿の目的である先行語彙の参照という観点を越えた様々な興味深い成果もいくつかあった。その中から編纂者たちの素顔に迫る新たな発見を最後にいくつか紹介しておきたい。研究対象をできるだけ深く掘り下げると同時にその研究対象の裾野をできるだけ広げるといことこそ学問をする醍醐味であり、また学問に対する必須の姿勢であると我々は考えるからである。

タタリノフが言語音声に対してゴンザ（およびボグダノフ）やレザノフよりも聴覚的に鋭敏であったということを示唆して置きたい。それを物語る証拠として、例えば、『タタリノフ語彙』における923番のчервь「蠕虫」や957番のшерсть「獣毛」のロシア語表記を挙げることができる。当時の一般的な書法は『ゴンザ語彙』や『レザノフ語彙』におけるようなчервь, шерстьであったのに反し、タタリノフは語末の軟音符とともに語末子音に先行する子音にも軟音符を付しており、語末子音のみならず、それに先行する子音の硬口蓋音性も聴き取っていたのである。言語音声に対する精密な聴取はキリル文字による日本語表記にも現われ、例えば、9番「納屋、倉庫」の項目におけるキリル文字表記日本語квурaの語頭子音連続кв, 特に摩擦音を表わすвなどに見られ、¹⁴⁾ 他にも今回の一覧表にはないが、『タタリノフ語彙』593番「北」のкшaにおける語頭子音連続кшの摩擦音を表わすшも同様である。¹⁵⁾ これは日本人漂流民の二世として日本語とロシア語の二言語を併用した賜物であり、彼がロシアにいた少なからぬ日本語教師の中から選ばれて露和語彙の編纂を囑望された理由もここから読み解くことができるのである。

12) 北村「タタリノフ露和語彙の研究（第2部）」（前掲）14頁、注22。

13) 村山『漂流民の言語』（前掲）141-142頁。

14) この語は村山『漂流民の言語』（前掲）所収の「[レクシコン]の改編による南部方言辞典」では脱落している。

15) 北村「タタリノフ露和語彙の研究（第2部）」（前掲）20-21頁参照。

『タタリノフ語彙』の学術的に面白い点はタタリノフが日本語をロシアで覚えた漂流民二世であるため、ロシアにおける日本語学習の軌跡を我々に示してくれるところにある。具体的な言及は別稿に譲るとして、従来、タタリノフ語彙は他の二つの語彙に比べて言語的純粋性に難点があると一部の研究者に受け止められていたが、この点がかえって言語混淆の興味深い様相を我々に提示してくれるのである。

全体的な観点から三つの語彙を比べた我々の所感を述べれば、『タタリノフ語彙』は『ゴンザ語彙』や『レザノフ語彙』に比べて項目の選定が即物的であり、多様な下位分類を試みている点は注目に値する。例えば、「河川」に関する項目は『タタリノフ語彙』では719番「川」、720番「小川」、721番「大河」、722番「速い川」、723番「静かな川」というように川の色々な様相を豊かに描こうとしているのに反し、『ゴンザ語彙』では「川」、「小川」、形容詞で「小川の」(全て316頁)というように川に関して連想が乏しいのである。ちなみに、この『ゴンザ語彙』の項目立ては『レザノフ語彙』2622番、2623番、2624番と全く同じであり、『レザノフ語彙』が『ゴンザ語彙』を参照したことが判る。

「砂糖」に関しても同様で、『タタリノフ語彙』757番「砂糖」、760番「粉砂糖」、761番「あめ玉(氷砂糖)」と様々な種類の砂糖が項目として立てられているのに対し、『ゴンザ語彙』では「砂糖」およびその形容詞「砂糖の」(ともに319頁)だけである。

ロシア語берегъ(現代ロシア語形берег)「岸」の対訳日本語を『タタリノフ語彙』では「カワバダ(川端)」(89番)とし、『ゴンザ語彙』では「ファマ(浜)」(29頁)とした。おそらく生涯に一度も海を見たことがなかったであろうタタリノフはイルクツク市街を流れるアンガラ川を眺めながら亡き父が生まれ育った遠い祖国に思いを馳せ、一方、ゴンザは語彙を編纂しながら幼時に遊んだ故郷の浜を思い出していたのであろう。大きな観点では鎖国という国是により、小さなものでは海事法令といった幕府や藩の施策のために時代の潮流に翻弄された彼らの数奇な運命を考えると感極まるものがある。

6. おわりに

Wörter und Sachen運動の正当な継承の一つとして盛んに調査・研究されてきたイベリア半島北西部の様々な土地の方言研究書を繙くと、¹⁶⁾ その土地では既に忘却の彼方に放り出されてしまった希少語が記録されているものや、標準語の語形をその土地の方言の音変化に合わせて簡単に変形させただけのような語が並んでいるものまで千差万別である。しかし、土地固有の語のみならず流入してきた中央の標準語や外来の借用語も含めた諸々の語全体がその方言における語彙体系であることを忘れてはならない。本稿で掲げた三つの語彙を比較した一覧表に記載された語は我々が調査した資料のごく一部であり、全ての語彙に共通して見出される語のみを挙げたものである。この一覧表に登場する語は先行語彙を参照したもの他に、全国的に共通した語が多く、わずかながら外来語も含んでいる。音声面で方言的な特徴が出ている語もあるが押しなべて一般的である。我々は18世紀のロシアに日本人漂流民が残した三つの語彙間の参照関係を明らかにするだけでなく、図らずも一言語(あるいは一方言)の語彙体系とは何

16) 北村一親「文化と言語」岩手大学人文社会科学部総合研究委員会(編)『文化の基礎理論と諸相の研究』(盛岡, 1992年, 47-53頁)にてH. シューハルトやR. メリソングルらによって提唱され、その真髓がイベリア半島の方言研究に引き継がれたWörter und Sachenの運動を紹介した。

かという問題にも対峙することとなったのである。

学部(学士課程)3年生である久保、鳥谷部、中村、齋藤の学生4名は、所属コースにて開講する「人間情報科学演習I」において北村の指導を受けたことを機に、北村と共に「方言研究プロジェクト」を結成し、夏休みや休日も返上して本研究に取り組んだ。ここで、同演習にて4名が研究したテーマを記しておく。

久保静佳「仙台の方言と『浜荻』について」

鳥谷部 茜「青森県の方言」

中村あずさ「レザノフの露日辞書について」

齋藤いく「南部方言と『御国通辞』」

また、齋藤と鳥谷部は、それぞれ岩手県と青森県の南部方言領域の出身であり、久保と中村は、それぞれ宮城県と岩手県の仙台方言領域の出身であるため、より身近な方言資料として『タタリノフ語彙』および『レザノフ語彙』に接することが可能であったことも特筆すべきであろう。

研究を統括してきた北村は学生諸君の意欲や処理能力の高さに引き寄せられ、彼女たちが学部の3年生であることをつい失念してしまい、次々と難題を課してきた。自身の不覚さを反省しつつも、この快挙を成し遂げた彼女たちを讃えると共に、このような共同研究をすることができたことは教師として喜ばしくもあり、また誇らしくすらある。

本稿には過誤や遺漏が多々あると懸念されるが、それも学問的に未熟な学部3年生の為した業とご寛赦願えれば幸いである。ただ、最終的にこれら全ての責は指導に当たった北村にあることは論を俟たない。本研究が今後、斯界の一助になれば我々にとって非望この上ない限りである。